

東京外語会主催 文化講演会

「香り米」をめぐるインドシナ稲作の新展開：タイ産ジャスミン・ライスを中心に」

講師：宮田敏之氏 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
＜タイ社会経済研究、東南アジア経済＞

日時：3月5日（土）午後2時—4時（続いて懇親会）

場所：東京外国語大学本郷サテライト4階



講師紹介

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。広島県生まれ。専門は、タイ社会経済研究、東南アジア経済研究。1987年早稲田大学法学部卒業。

タイ国立タムマサート大学大学院経済学研究科およびタイ国立チュラーロンコーン大学大学院経済学研究科留学。早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了。京都大学大学院人間環境学研究科博士後期課程修了。天理大学国際文化学部タイ学科助教授。2005年東京外国語大学外国語学部タイ語専攻助教授着任。2012年4月より現職。東京外国語大学タイ語研究室代表。主要な研究業績として、「東南アジア経済史 近現代Ⅰ：19世紀半ば～1930年代」水島司他編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会（2015年）：「屋台骨としての農業：しぶとく発展し続けるタイ農業」綾部真雄編著『タイを知るための72章（第2版）』明石書店（2014年）：「タイ産高級米ジャスミン・ライスと東北タイ」『東洋文化』（東京大学東洋文化研究所）第88号（2008年）など。JMOOCインターネット講義「新タイ経済発展論」担当（2016年1月～2月）。

講師からのメッセージ

東南アジアのタイ王国は、経済グローバル化の中で、自動車産業に代表される製造業が発展し、著しい経済成長を遂げてきました。日本企業のタイ現地法人数は中国に次ぐと言われ、日本とは極めて密接な関係を構築しています。2010年タイの名目GDPに占める製造業の割合は30%以上を占め、農林水産業の割合は10%に低下しています。しかし、農林水産業自体の生産額は、製造業の発展した1990年から2010年の間においても、5倍に伸びています。この間の名目GDP全体の伸びが6倍ですので、農林水産業が決して衰退しているわけではありません。そこで、この講演では、依然として、タイ経済の「屋台骨」として重要な意味を持つ農業に着目し、特に、米、中でも世界市場で高級米として取引される「香り米」のジャスミン・ライスをご紹介します。「香り米」は、高価格ゆえに、インドシナ半島のベトナムやカンボジアなどでも栽培や輸出が拡大し、アメリカ・ルイジアナ州でも栽培が拡大しています。タイ産香り米ジャスミン・ライスの歴史を振り返り、現代的な課題を検討したいと思います。